Biapenem の in vitro評価

正田宗生,森 眞彦,橘田多美 日本レダリー株式会社生物研究所*

新規カルバペネム系抗生物質 biapenem(BIPM)の in vitro 抗菌作用について主に imipenem (IPM)、ceftazidime (CAZ)を対照薬剤として比較検討した。BIPM はグラム陽性菌、グラム陰性菌に対し幅広い抗菌スペクトルと強い抗菌活性を示した。グラム陽性臨床分離株に対する抗菌力は他のセフェム剤よりは明らかに優れていたが、IPM には劣る結果であった。しかし、BIPM、IPM にも耐性を示す MRSA には BIPM/セフェム剤の併用により著しい抗菌力増強が認められた。また、7属 359株のグラム陰性臨床分離株に対する MIC 90 値は $0.2\sim3.13~\mu$ g/ml であり、供試薬剤中最も優れた抗菌力を示し、特にブドウ糖非発酵菌の Pseudomonas aeruginosa、Acinetobacter calcoaceticus に強い抗菌活性を示した。さらに Xanthomonas maltophilia を除く各種 β – lactamase 産生菌に対しても最も強い抗菌力を示した。また、CAZ、ofloxacin で選択した P. aeruginosa の自然耐性変異株の BIPM に対する感受性変化は認められなかった。各増殖期の P. aeruginosa に対する殺菌作用を検討したところ、対数期から定常期初期にかけてのいずれの増殖期においても BIPM は強い殺菌力を示した。走査電顕による形態変化観察においても BIPM の強い抗緑膿菌活性を反映した結果が得られた。また、低温および低栄養培養による菌の発育速度を低下させた条件下でも BIPM の強い抗菌力が認められた。

Key words: Biapenem, carbapenem, MIC, 殺菌作用,併用効果

カルバペネム系抗生物質はβ-ラクタム系抗生物質の中でも、特に広範な抗菌スペクトラム、強い殺菌力および高いβ-lactamase安定性を有し、臨床的にも極めて有用性の高い抗生剤として認められている。しかし、従来のカルバペネム系抗生物質^{1,2)} では主に腎に存在する dehydropeptidase - I (DHP-I)によって分解され易く、酵素阻害剤との合剤での投与を強いられ、かつ中枢神経毒性あるいは腎毒性などの安全性の面でも改善すべき点が残されていた。

Biapenem(BIPM)は日本レダリー株式会社で研究開発された単剤で投与可能な、しかも中枢神経系に対する毒性が極めて低い新しい注射用カルバペネム系抗生物質^{3,4)}である。本剤はカルバペネム骨格の4位にメチル基を、3位にピラゾロトリアゾリウムチオ基を導入した化学構造を有する。

今回, 我々は BIPM の in vitroでの細菌学的評価について検討したので報告する。なお、比較薬剤として主に imipenem (IPM), ceftazidime (CAZ)および aztreonam(AZT)を用いた。

I. 実験材料および実験方法

1. 使用薬剤

BIPM, cefuzonam (CZON) および meropenem (MEPM) は日本レダリー製薬製剤研究所で合成したものを使用した。IPM は Tienam ® (萬有製薬)より当研究所において分離精製した標品を用いた。また, piperacillin (PIPC;富山化学), cefotiam (CTM;武田薬品), cefoperazone (CPZ;富山化学), latamoxef (LMOX;塩野義製薬), CAZ (日本グラクソ), AZT (エーザイ)および ofloxacin (OFLX;第一製薬)は市販品で、いずれも力価の明らかなものを使用した。

2. 使用菌株

抗菌スペクトル測定には、日本化学療法学会にて推奨された MIC 測定用標準菌株を使用した。各種臨床分離株の感受性測定には、1985年から 1991年に本邦における臨床材料より分離された保存株を用いた。また、 β - lactamase 産生株に対する抗菌力の測定にはエピゾーム研究所より分与された菌株を使用した。

3. 感受性測定

日本化学療法学会標準法⁵⁾ に準じた寒天平板希釈法 に従った。すなわち,被検菌の感受性測定用ブイヨン (STB; 日水製薬)37℃,一夜培養液(10⁸~10⁹ cells/ml)を 約10⁶ cells/mlになるように Buffered saline gelatin (BSG)溶 液で希釈し、ミクロプランター(佐久間製作所)を用い、薬剤含有感性ディスク用培地-N(SDA-N;日水製薬)寒 天培地に約5μl接種し、37℃、18時間培養後、被検菌の発育が認められない最小濃度をもって Minimum inhibitory concentration (MIC)とした。

4. in vitro併用効果

Methicillin resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) 24株に対する BIPM/CTM, BIPM/CZON, IPM/CTM および IPM/CZONの併用効果を checkerboard dilution法 ⁶⁾ により MIC測定と同一条件で検討し、fractional inhibitory concentration (FIC) index を求め、以下の基準で併用効果を判定した。

FICindex ≤ 0.500 を相乗効果, 0.500 〈FICindex ≤ 1.000 を相加効果, 1.000 〈FICindex ≤ 2.000を不関, 2.000 〈FICindex を拮抗作用とした。

5. 増殖曲線に及ぼす影響

特に殺菌力に対する菌の growth phase の影響について

Pseudomonas aeruginosa PAO1を STBで37℃,4日間培養することにより、菌の growth phaseを揃えた後、再び新鮮 STBに接種し、37℃で振盪培養した。菌数が約10⁶ cells/mlに達した時点を0時間とし、0、2および4時間後に最終濃度が6MICになるように各薬剤を添加した。薬剤の添加時と添加1、2および4時間後における生菌数の測定を行った。

6. 走査型電子顕微鏡による形態変化の観察

P. aeruginosa PAO1について上記と同様にして定常期初期に達するまで振盪培養し、この時点で 6MIC 相当量の各薬剤を添加し、その1、2および 4時間後に、サンプリングし、電顕用試料とした。試料は 2.5% グルタルアルデヒドで固定後、アルコール希釈系列で脱水した。次いで、酢酸イソアミルで置換し、臨界点乾燥および白金パラジウム蒸着を行い、S-530走査型電子顕微鏡(日立製作所)で観察した。

7. 抗菌力に及ぼす菌の発育速度の影響

Table 1. Antibacterial spectrum of biapenem against standard strains of bacteria

Organism			MIC (μg/ml)		
Organism	biapenem	imipenem	latamoxef	ceftazidime	aztreonam	cefuzonam
Staphylococcus aureus FDA 209P JC-1	0.1	0.013	3.13	6.25	>100	0.39
Staphylococcus aureus Terajima	0.013	≦0.006	0.78	1.56	>100	0.05
Staphylococcus aureus MS353	0.025	0.013	1.56	3.13	>100	0.2
Streptococcus pyogenes Cook	0.013	≦0.006	1.56	0.2	25	0.013
Bacillus subtilis ATCC6633	0.05	0.025	3.13	3.13	>100	0.2
Micrococcus luteus ATCC9341	0.1	0.013	0.78	0.39	12.5	≦0.006
Escherichia coli K-12 C600	0.05	0.1	0.1	0.1	0.05	0.1
Escherichia coli NIHJ JC-2	1.56	1.56	0.1	0.2	0.1	0.05
Enterobacter cloacae 963	0.1	0.2	0.1	0.2	0.05	0.2
Enterobacter aerogenes ATCC13048	0.78	1.56	0.2	0.39	0.1	0.2
Klebsiella pneumoniae PCI-602	0.1	0.2	0.05	0.05	≦0.006	≦0.006
Salmonella typhimurium II D971	0.1	0.2	0.1	0.1	0.05	0.1
Salmonella typhi 901	0.05	0.05	0.05	0.05	≤0.006	0.05
Salmonella paratyphi 1015	0.78	1.56	6.25	3.13	>100	0.2
Salmonella schottmuelleri 8006	0.2	0.39	0.05	0.2	0.05	0.025
Salmonella enteritidis G14	0.78	1.56	0.1	0.1	0.013	≦0.006
Serratia marcescens IAM1184	0.2	0.2	0.1	0.025	≦0.006	0.025
Morganella morganii IFO3848	0.2	1.56	0.1	0.013	≦0.006	≦0.006
Proteus mirabilis IFO3849	3.13	3.13	0.1	0.05	≦0.006	0.05
Proteus vulgaris OX-19	1.56	1.56	0.2	0.025	≦0.006	0.013
Proteus vulgaris HX-19	1.56	1.56	0.2	0.025	≦0.006	≦0.006
Providencia rettgeri IFO3850	0.05	0.025	6.25	0.2	0.39	3.13
Pseudomonas aeruginosa IFO3445	0.39	0.39	12.5	1.56	3.13	50
Pseudomonas aeruginosa NCTC10490	0.2	0.39	1.56	0.2	0.39	3.13
Pseudomonas aeruginosa PAO1	3.13	6.25	12.5	1.56	3.13	25

Inoculum size: 106 cells/ml

P. aeruginosa 15株を用いて,菌の発育速度を低下させた状態,すなわち低温培養条件(培養温度を 20℃とする)および低栄養条件(培養培地として STB を D.W. で 1/4,1/16に希釈した培地を用いる)下での各薬剤の MIC 測定を実施した。また、各種最少培地(M9, Davis)およびヒト血清などの低栄養培地を用いた場合における抗菌活性の変動についても合わせて検討した。

8. 自然耐性菌の分離

STB 中で一夜振盪培養した P. aeruginosa PAO1 を 3.13 μ g/mlの CAZ あるいは OFLX を含む SDA - Nにコンラージ棒で塗抹接種し、37℃で24時間培養した。生育したコロニーを再び同培地で純培養して無作為に13株の耐性株を選択した。

II. 結果

1. 抗菌スペクトラム

BIPM の抗菌スペクトラムを IPM、LMOX、CAZ、AZT、CZONを対照薬剤として比較検討した結果を Table 1に示した。BIPM はグラム陽性菌およびグラム陰性菌に幅広い抗菌スペクトラムを示し、グラム陽性菌に対しては、0.013~0.1 μg/mlの MICを示し、IPM には劣るものの他のセフェム剤よりは優れていた。グラム陰性菌に対しても BIPM は優れた抗菌力を示し、MIC は全て3.13 μg/ml以下であり、特に P. aeruginosa に対し、 対照薬剤中最も優れた抗菌活性を有していた。

2. 臨床分離株に対する抗菌力

臨床分離株 9 属 539 株に対する BIPM および対照薬剤 の抗菌力を Table 2に示した。 Methicillin 感性 S. aureus に 対する BIPMの MIC90 は 0.39 µg/ml であり, IPMには劣る ものの他のセフェム剤よりは明らかに優れていた。セ フェム剤がほとんど抗菌力を示さない MRSA、コアグラー ゼ陰性 Staphylococci に対する BIPM の MIC 50. 90 はそれ ぞれ (12.5, $50 \mu g/ml$), (1.56, $50 \mu g/ml$) であったが IPM より は若干劣っていた。 Enterococcus faeciumに対しては他剤 と同様に抗菌力は弱かった。 Escherichia coli に対する BIPMのMIC90は0.39 µg/mlであり, IPM, CAZ, AZTに比 べて 2倍優れていた。 Klebsiella pneumoniae, Proteus mirabilisに対する MIC₉₀はそれぞれ 0.39, 1.56 μg/ml であり, IPMに比べ 2倍優れていたが、他のセフェム剤には劣っ ていた。特に後者の菌では明らかであった。しかし、 Citrobacter freundii, Enterobacter cloacaeに対してはセフ ェム剤の抗菌力が比較的弱いのに対し、BIPM、IPM は 優れた活性を示し、MIC90は両薬剤ともそれぞれ 0.39、 0.78 μg/mlであった。また,ブドウ糖非発酵菌の P. aeruginosa, Acinetobacter calcoaceticus に対する BIPM の $MIC_{50,90}$ はそれぞれ (1.56, 3.13 μ g/ml), (0.1, 0.2 μ g/ml) であり対照薬剤に比べ最も強い抗菌力を示した。

3. β - lactamase 産生株に対する抗菌力

β - lactamase産生株に対する抗菌力を Table 3に示した。

Table 2-1. Antibacterial activity of biapenem against clinical isolates

Organism (No. of strains)	Antibiotic	M	IIC (µg/ml)	
Organism (No. or strains)	Antibiotic	Range	50%	90%
Staphylococcus aureus, methicillin susceptible (53) $(\le 6.25 \mu\text{g/ml})$	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.05 \sim 0.78 \\ 0.013 \sim 0.1 \\ 3.13 \sim 25 \\ 3.13 \sim 50 \\ >100 \sim >100 \\ 0.2 \sim 6.25 \end{array}$	0.1 0.025 6.25 12.5 >100 0.78	0.39 0.05 12.5 25 >100 1.56
Staphylococcus aureus, methicillin resistant (69) $(\le 12.5 \mu\text{g/ml})$	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.05 \sim 100 \\ 0.1 \sim 100 \\ 12.5 \sim >100 \\ 25 \sim >100 \\ >100 \sim >100 \\ 3.13 \sim >100 \end{array}$	12.5 6.25 50 >100 >100 100	50 50 >100 >100 >100 >100 >100
coagulase- negative Staphylococci (30)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.1 & \sim 100 \\ 0.05 & \sim 100 \\ 6.25 & \sim >100 \\ 6.25 & \sim >100 \\ >100 & \sim >100 \\ 0.39 & \sim 100 \end{array}$	1.56 0.1 50 25 >100 3.13	50 50 100 100 >100 >100 50

MIC determination: Two-fold serial agar plate dilution method

Inoculum size: 106 cells/ml

Table 2-2. Antibacterial activity of biapenem against clinical isolates

Organism (No. of strains)	Antibiotic	M	IC (μg/ml)	•
Organism (140. 01 Strains)	Allibiotic	Range	50%	90%
Enterococcus faecium (28)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.1 & \sim > 100 \\ 0.1 & \sim > 100 \\ 25 & \sim > 100 \\ 3.13 & \sim > 100 \\ > 100 & \sim > 100 \\ 0.2 & \sim > 100 \end{array}$	>100 50 >100 >100 >100 >100 >100	>100 >100 >100 >100 >100 >100 >100
Escherichia coli (42)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.025 \sim 1.56 \\ 0.05 \sim 1.56 \\ 0.05 \sim 6.25 \\ 0.025 \sim 3.13 \\ \leq 0.006 \sim 6.25 \\ 0.025 \sim 3.13 \end{array}$	0.1 0.39 0.1 0.1 0.05	0.39 0.78 0.39 0.78 0.78 0.39
Klebsiella pneumoniae (30)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.05 & \sim 1.56 \\ 0.1 & \sim 3.13 \\ 0.05 & \sim 6.25 \\ 0.025 & \sim 0.78 \\ 0.013 & \sim 0.39 \\ 0.025 & \sim 1.56 \end{array}$	0.05 0.2 0.1 0.1 0.025 0.1	0.39 0.78 0.2 0.2 0.05 0.2
Enterobacter cloacae (36)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.05 \sim 0.78 \\ 0.1 \sim 0.78 \\ 0.1 \sim 100 \\ 0.1 \sim > 100 \\ 0.025 \sim 100 \\ 0.1 \sim > 100 \\ \end{array}$	0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.1 0.2	0.78 0.78 25 >100 25 100
Citrobacter freundii (48)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.05 \sim 0.78 \\ 0.1 \sim 0.78 \\ 0.05 \sim > 100 \\ 0.05 \sim > 100 \\ 0.025 \sim > 50 \\ 0.05 \sim > 50 \end{array}$	0.1 0.2 1.56 6.25 1.56 1.56	0.39 0.39 25 50 25 12.5
Proteus mirabilis (39)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.78 & \sim 1.56 \\ 0.78 & \sim 3.13 \\ 0.05 & \sim 0.39 \\ 0.025 & \sim 0.1 \\ \leq 0.006 & \sim 0.025 \\ 0.05 & \sim 0.39 \end{array}$	1.56 1.56 0.1 0.05 ≤0.006 0.05	1.56 3.13 0.1 0.05 0.013 0.1
Acinetobacter calcoaceticus (51)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$\begin{array}{c} 0.05 & \sim 0.78 \\ 0.1 & \sim 1.56 \\ 3.13 & \sim 100 \\ 0.78 & \sim 25 \\ 6.25 & \sim 100 \\ 6.25 & \sim 100 \end{array}$	0.1 0.2 25 3.13 25 25	0.2 0.2 100 12.5 100 50
Pseudomonas aeruginosa (113)	biapenem imipenem latamoxef ceftazidime aztreonam cefuzonam	$0.05 \sim 25$ $0.2 \sim 25$ $0.78 \sim 100$ $0.39 \sim 100$ $0.1 \sim 100$ $1.56 \sim 100$	1.56 3.13 50 6.25 12.5 100	3.13 6.25 >100 50 50 >100

Table 3. Antibacterial activity of biapenem against β - lactamase producing strains

	Onnerione	MIC (μg/ml)							
	Organism	biapenen	imipenem	latamoxef	ceftazidime	aztreonam	cefuzonam		
İ	Escherichia coli TEM-1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2		
	Escherichia coli TEM-2	0.2	0.39	0.39	0.78	0.2	0.2		
	Escherichia coli OXA-1	0.05	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2		
	Escherichia coli OXA-2	0.1	0.2	0.39	12.5	0.1	0.2		
Lasc	Escherichia coli PSE-1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1		
2	Escherichia coli PSE-3	0.2	0.78	0.2	0.2	0.1	0.1		
	Escherichia coli SHV-1	0.1	0.2	0.2	0.39	0.1	0.2		
	Staphylococcus aureus ML15009	0.025	≦0.006	1.56	1.56	>100	0.1		
-	Staphylococcus aureus ML15009/pI258	0.05	0.013	1.56	3.13	>100	0.39		
	Klebsiella pneumoniae GN69	0.1	0.2	0.1	0.2	0.05	0.05		
7	Escherichia coli GN5482	0.05	0.2	0.39	0.78	0.39	0.39		
1	Escherichia coli No. 1501	0.025	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1		
1	Escherichia coli No. 96	0.05	0.1	0.39	0.78	1.56	0.78		
	Enterobacter cloacae GN5797	0.1	0.39	3.13	0.39	0.39	0.78		
	Enterobacter cloacae GN7467	1.56	1.56	3.13	1.56	1.56	1.56		
	Enterobacter cloacae GN7471	0.1	0.2	0.78	3.13	3.13	6.25		
	Citrobacter freundii GN346	0.2	0.39	0.2	3.13	0.39	0.39		
	Citrobacter freundii GN7391	0.78	1.56	50	100	50	25		
	Serratia marcescens GN10857	3.13	6.25	25	0.78	1.56	3.13		
	Serratia marcescens L-65	0.2	0.39	0.39	0.1	0.1	0.05		
	Serratia marcescens L-82	0.1	0.39	0.78	0.39	0.2	0.78		
Coase	Providencia rettgeri GN4430	0.39	0.39	0.025	0.1	≦0.006	0.025		
ت	Providencia rettgeri GN4762	0.2	0.39	0.1	0.2	0.025	0.2		
1	Providencia rettgeri GN5284	0.2	0.39	0.025	0.1	≦0.006	0.05		
	Morganella morganii GN5307	0.78	1.56	0.1	0.05	0.013	0.025		
	Morganella morganii GN5375	1.56	3.13	0.1	0.05	0.013	0.025		
Ì	Morganella morganii GN5407	1.56	3.13	0.2	0.1	0.025	0.05		
	Proteus vulgaris GN76	3.13	3.13	0.2	0.025	0.013	0.1		
1	Proteus vulgaris GN4413	3.13	3.13	0.78	0.1	0.05	0.78		
	Proteus vulgaris GN7919	0.2	0.2	0.39	0.2	0.05	0.39		
	Pseudomonas aeruginosa GN918	1.56	3.13	50	3.13	12.5	50		
	Pseudomonas aeruginosa GN10362	0.78	3.13	12.5	0.78	3.13	12.5		
	Pseudomonas aeruginosa GN10367	1.56	3.13	50	1.56	3.13	25		
	Klebsiella oxytoca GN10650	0.39	0.39	0.1	0.2	6.25	0.39		
CVase	Pseudomonas cepacia GN11164	1.56	3.13	12.5	0.39	1.56	3.13		
3	Xanthomonas maltophilia GN12873	100 >	100	6.25	100	>100	25		

Abbreviations: PCase, penicillinase; CSase, cephalosporinase; CXase, oxyimino cephalosporinase

BIPM は penicillinase 産生株、cephalosporinase 産生株,Xanthomonas maltophiliaを除く oxyimino cephalosporinase産生株に対し、それぞれ 0.05~0.2 μg/ml, 0.025~3.13 μg/ml, 0.39~1.56 μg/ml の濃度で全ての菌株の発育を阻止し、その抗菌力は IPM に比較し、2~4倍強い優れたものであった。

4. in vitro併用効果

臨床分離 MRSA 24 株に対する各種薬剤組み合わせに よる併用効果を Table 4に, また, FICindex分布を Table 5 に示した。 いずれの組み合わせにおいても相乗、相加効果のみが認められた。相乗効果を示した株は BIPM/CTM, BIPM/CZON, IPM/CTM, IPM/CZON でそれぞれ 23 株 (96%), 23 株 (96%), 22 株 (92%) 存在した。また、併用時の各薬剤の MICについて調べると、 BIPM, IPM, CTM, CZON単独時の平均 MIC, 20.1, 19.6, 95.8, 75 μg/ml がそれぞれ 2.23~2.32, 2.13~2.81, 14.7~14.8, 11.1~11.2 μg/ml といずれも小さくなり、併用による著しい抗菌力増強が認められた。

5. 増殖曲線に及ぼす影響

Table 4 Effect of	combination of biapenem	with cephem	antibiotics or	1 24 MRSA strains
-------------------	-------------------------	-------------	----------------	-------------------

	Ge	ometric mean (ra	nge) of MIC (μg/t	nl)	_ Geometric mean
Antibiotic	Alo	ne	Comb	(range)	
	carbapenem	the other	carbapenem	the other	of FIC index
biapenem + cefotiam	20.1 (3.13~100)	95.8 (50~200)	$(0.05 \sim 50)$	14.7 (3.13~100)	0.170 (0.0705~1)
biapenem + cefuzonam	20.1 (3.13~100)	75 (50~200)	2.23 (0.013~50)	11.2 (3.13~25)	0.208 (0.0665~0.5625)
imipenem + cefotiam	19.6 (0.39~100)	95.8 (50~200)	2.13 (0.013~50)	14.8 (3.13~100)	0.162 (0.0393~1)
imipenem + cefuzonam	19.6 (0.39~100)	75 (50~200)	2.81 (0.025~50)	11.1 (0.78~25)	0.203 (0.0316~0.625)

Table 5. FIC index of biapenem combined with cephem antibiotics against 24 MRSA strains

Range of	No. of strains tested								
FIC index	biapenem + cefotiam	${\it biapenem+cefuzonam}$	imipenem + cefotiam	imipenem + cefuzonam					
≤ 0.125	7	2	3	6					
$0.126 \sim 0.250$	16	10	20	7					
$0.251 \sim 0.500$		11		9					
$0.501 \sim 1.000$	1	1	1	2					
Total	24	24	24	24					

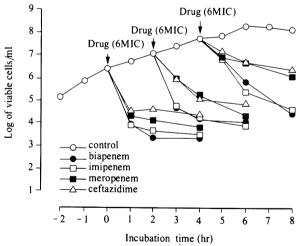


Fig. 1. Influences of growth phase of *P. aeruginosa* PAO1 on the susceptibility to biapenem

MIC (μ g/ml): biapenem, 3.13; imipenem, 6.25; meropenem, 3.13; ceftazidime, 1.56.

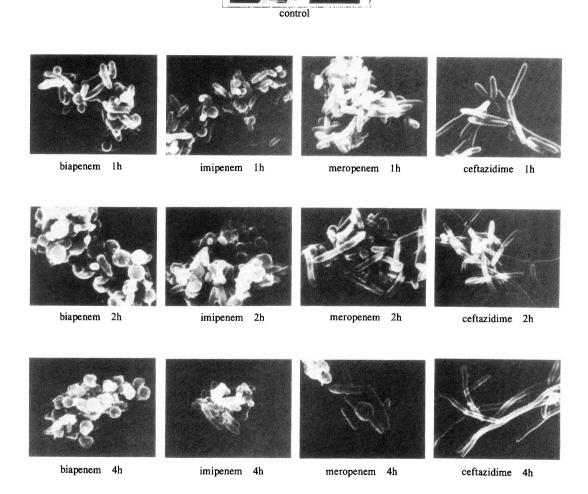


Fig. 2. Morphological changes of *P. aeruginosa* PAO1 at early stationary growth phase exposed to biapenem, imipenem, meropenem and ceftazidime

各増殖期の P. aeruginosa PAO1 に対する殺菌作用を検討したところ、Fig. 1 に示すように対数期から定常期初期にかけてのいずれの増殖期においても BIPMは IPMと同様強い殺菌力を示した。すなわち、薬剤添加 4時間後の生菌数が薬剤添加前に比べ 1/1000 に減少した。しかし、MEPM、CAZにおいては対数増殖期後期から定常期初期の菌に対し、殺菌力が弱まる傾向がみられ、薬剤添加 4時間後でも生菌数は添加前の 1/100以下にはならなかった。

6. 形態変化観察

Fig. 2に示すように BIPM、IPMに作用させた菌は経時的にスフェロプラスト化し、その後溶菌する像が観察された。しかし、4時間後の IPMにおいては一部コントロールと同様の形態を示す菌体もみられた。一方、CAZでは菌のフィラメント化が主に観察された。MEPMを

作用させた菌ではフィラメント化がみられるものの CAZ ほど伸長化せず、次第にスフェロプラスト化し、溶菌する像が観察された。また、薬物作用 4時間後に菌体中央部が膨化した特徴的な形態像もみられた。

7. 抗菌力に及ぼす菌の発育速度の影響

Fig. 1でみられた実験結果を確認検討するために低温および低栄養培養による菌の発育速度を低下させた条件下での各薬剤の抗菌力の変動を調べた。Fig. 3に示したように臨床分離の P. aeruginosa 15 株に対し BIPM、IPM では低温下における培地の希釈に伴い、薬剤感受性が高まる傾向がみられた。特に低温培養だけでも BIPM の抗菌力が若干強まった。これに対し CAZ、 AZT に対する感受性は逆に低温下での培地希釈により低下した。さらに M9, Davis の最少培地およびヒト血清を用いた低栄養培地による抗菌力の変動についても検討した。 Table

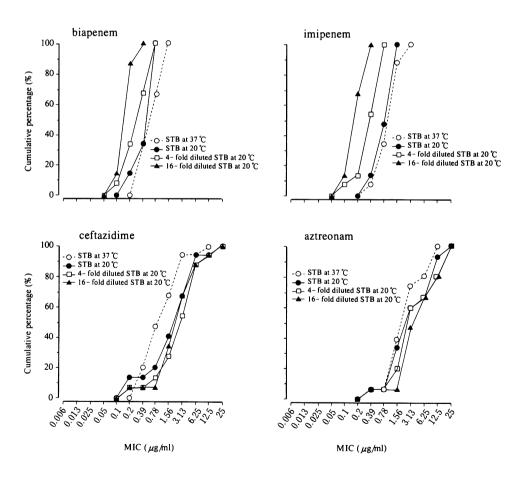


Fig. 3. Influences of incubation temperature and diluted sensitivity test broth on the susceptibility of 15 strains of *P. aeruginosa* to biapenem

Table 6.	Influences of	various	media on	the suscep	tibility	of <i>P</i> .	aeruginosa PAO1

Medium	biapenem		imipenem		meropenem		ceftazidime		aztreonam	
	MIC	MBC	MIC	MBC	MIC	MBC	MIC	MBC	MIC	MBC
STB	1.56	1.56	6.25	6.25	1.56	3.13	0.78	0.78	3.13	3.13
M9	0.2	0.39	0.39	1.56	0.1	0.78	0.39	1.56	1.56	6.25
Davis	0.2	0.39	0.39	0.78	0.1	0.39	0.39	0.78	1.56	3.13
Inactivated human serum	*	0.78	*	0.78	*	3.13	*	>100	*	>100

Each value represents μ g/ml. Inoculum size: 105 cells/ml.

Abbreviations : STB, Sensitivity Test Broth (Nissui); MIC, Minimal Inhibitory Concentration;

MBC, Minimal Bactericidal Concentration.

*: It is not possible to determine the MIC because of very poor bacterial growth even in the inactivated human serum without drugs.

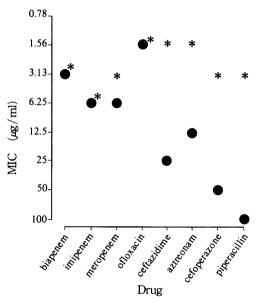
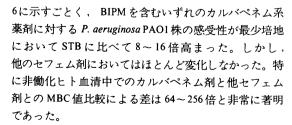


Fig. 4. Antibacterial activity of biapenem against 13 mutants of P. aeruginosa PAO 1 selected by ceftazidime

*: MIC of each drug for parent strain of P. aeruginosa PAO 1

: 13 strains



8. 自然耐性変異株に対する抗菌力

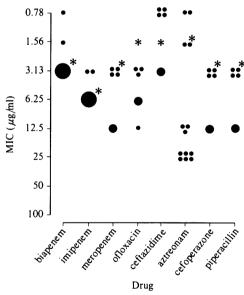


Fig. 5. Antibacterial activity of biapenem against 13 mutants of P. aeruginosa PAO 1 selected by ofloxacin

*: MIC of each drug for parent strain of P. aeruginosa PAO 1

: 1 strain : 9 strains : 11strains

CAZで選択された P. aeruginosa PAOIの自然耐性変異 株13株の各種薬剤に対する感受性変化を調べたところ、 BIPM, IPM, OFLX では不変, CAZ, MEPM, AZT, CPZ, PIPC でそれぞれ 16, 2, 8, 16, 32倍 MICの上昇が 認められた (Fig. 4)。また、同様に OFLXで選択された自 然耐性変異株13株の感受性変化を検討したところ, BIPM, IPM ではいずれも耐性株は認められず, OFLX, MEPM, CAZ, AZT, CPZ, PIPCでそれぞれ 2~8, 4, 2,

8~16, 4, 4倍の MIC 上昇を示す株 (69~100%) が存在した (Fig. 5)。

Ⅲ. 考察

BIPM は DHP- I に極めて安定⁷⁾ であり、かつ中枢神 経に対する毒性が極めて低い新しいタイプのカルバペ ネム系抗生物質であり、単剤投与での臨床的検討が実 施された。BIPMはグラム陽性菌、グラム陰性菌に幅広 い抗菌スペクトルと優れた抗菌力を示した。この抗菌 力の強さは各種臨床分離株に対する感受性測定によっ ても確認された。また, X. maltophilia を除く各種βlactamase産生菌に対し、良好な抗菌力を示した点から、 本剤の高いβ - lactamase 安定性が推察される。BIPM の 抗菌力の特徴の一つとしてブドウ糖非発酵菌、特に緑 膿菌に優れた抗菌活性を示すことがあげられる。CAZ、 AZTの抗緑膿菌セフェム剤に耐性を示す株を含む P. aeruginosa 113株に対する本剤の MIC 50,90値はそれぞれ 1.56, 3.13 μg/mlであり、この強い抗菌力は恐らく優れた外膜 透過性および高いβ - lactamase安定性に起因するものと 考えられる。CAZ、OFLXで選択した緑膿菌の自然耐性 変異株に対する BIPM の感受性成績より本剤は D2等の 透過孔からの透過性が高いものと思われる。また、BIPM は対数期から定常期初期のいずれの増殖期の緑膿菌に 対しても強力な殺菌作用を示した。低温および低栄養 培養による菌の発育速度を低下させた条件下において も優れた抗菌活性が認められ、特に低栄養培養条件下 で顕著な抗菌力の増強がみられた。この現象は Trias and Nikaido⁸⁾ が指摘しているように薬剤の D2ポーリン透過 に対する塩基性アミノ酸による拮抗作用により説明し 得るものと思われる。

さらに MRSAに対し、CTM、CZONのセフェム剤との 組み合わせにより強い相乗併用効果が得られたことか ら、in vivoにおける検討の余地は十分あると思われる。 以上のことから、BIPM は優れた in vitro抗菌作用、特 に抗緑膿菌活性および併用ではあるが抗 MRSA 活性を 有した新しいカルバペネム剤であり、DHP-Iに対する 極めて高い安定性を示す点からも臨床試験における優れた有効性が大いに期待される薬剤であろう。

文 献

- 日本化学療法学会:第32回日本化学療法学会西日本支部総会,新薬シンポジウムII。MK-0787/MK-0791, 岡山,1984
- 日本化学療法学会:第38回日本化学療法学会西日本支部総会,新薬シンポジウム(1)。CS-976,岐阜, 1990
- 3) Ubukata K, Hikida M, Yoshida M, Nishiki K, Furukawa Y, Tashiro K, Konno M and Mitsuhashi S: In vitro activity of LJC 10,627, a new carbapenem antibiotic with high stability to dehydropeptidase I Antimicrob Agents Chemother 34: 994 ~ 1000, 1990
- 4) Hikida M, Masukawa Y, Nishiki K and Inomata N: Low neurotoxicity of LJC 10,627, a novel 1β - methyl carbapenem antibiotic: inhibition of γ aminobutyric acid_A, benzodiazepine, and glycine receptor binding in relation to lack of central nervous system toxicity in rats. Antimicrob Agents Chemother 37: $199 \sim 202$, 1993
- 5) 日本化学療法学会:最小発育阻止濃度(MIC)測定 法再改訂について。Chemotherapy 29: 76~79, 1981
- Elion GB, Singer S and Hitchings GH: Antagonists of nucleic acid derivatives. VIII synergism in combinations of biochemically related antimetabolites. J Biol Chem 208: 477 ~ 488,1954
- Hikida M, Yoshida M and Mitsuhashi S: Comparative stability of carbapenem and penem antibiotics to renal dehydropeptidase - I. Drug Res 43(I): 71 ~ 73, 1993
- 8) Trias J and Nikaido H: Protein D2 channel of the Pseudomonas aeruginosa outer membrane has a binding site for basic amino acids and peptides. J Biol Chem 265: 15680~15684, 1990

In vitro evaluation of biapenem, a new carbapenem antibiotic

Muneo Hikida, Masahiko Mori and Tami Kitta Biological Research Laboratories, Lederle (Japan), Ltd. 1-6-34, Kashiwa-cho, Shiki, Saitama 353, Japan

The *in vitro* antibacterial activity of biapenem(BIPM), a new carbapenem antibiotic, was compared with those of imipenem (IPM) and ceftazidime (CAZ).

BIPM had broad – spectrum activity against gram – positive and gram – negative aerobes. Antibacterial activity of BIPM against gram – positive bacteria of clinical isolates was much superior to those of the cephalosporins tested but inferior to that of IPM. However, against methicillin resistant Staphy-lococcus aureus characterized by resistance to carbapenems, such as IPM or BIPM, in combination with cefotiam and cefuzonam, showed strong synergistic activity in vitro. The MIC90 of BIPM against 359 gram – negative clinically isolated strains ranged from 0.2 to 3.13 μ g/ml, and its activity was the most potent among the antibiotics tested. Especially, BIPM showed excellent activity against glucose non – fermentric bacteria, such as Pseudomonas aeruginosa or Acinetobacter calcoaceticus. Moreover, this compound had the most potent activity against various β lactamase producing strains except Xanthomonas maltophilia. Besides, there was no change in a susceptibility of this compound against mutants of P. aeruginosa PAO 1 selected by CAZ or ofloxacin. The bactericidal activity of BIPM was not affected by any growth phase of P. aeruginosa. However, in a case of CAZ there is a tendency for the potency to become reduced at early stationary growth phase in comparison with at log phase.

The results obtained in morphological observation by the scanning electron microscope – that is, the formation of spherical cells – reflected the potent antipseudomonal activity of BIPM. Besides, we recognized its activity even against slow growing bacteria under low temperature and low nutrient conditions.